

SAIL 'O' 通信 NO. 67

大阪帆船と国際交流の会

Sail And International Link of Osaka

編集責任者 北村・辻村 2019年1月26日発行

会報目次

1. ボランティアレポート、他
 - ① 海王丸一般公開ボランティア
 - 1) 海王丸一般公開
 - 2) 海王丸ボラに参加して
 - ② ポーランド帆船「ダル・ムウォジェジ」一般公開ボランティア
 - ③ 第8回大阪マラソン 団体ボランティア
2. 旅行記・イベント参加報告
 - ① 大阪港 150 年記念祭に参加して
 - ② 夢待ち港
 - ③ 第 11 回ええやん！天保山まつり 菱垣廻船浪華丸ヒガキくん まちなかパレード
3. その他情報
 - ① ご報告
 - 1) ポーランド帆船「ダル・ムウォジェジ」関連
 - ② 総会関連
 - 1) 総会日時・場所
 - 2) 来年度役員募集
 - 3) 会計監査
 - ② お花見会

記事本文

1. ボランティアレポート

- ① 海王丸一般公開ボランティア
 - 1) 海王丸一般公開

2月28日海王丸一般公開のボランティアに参加いたしました。天保山岸壁に着いた海王丸はいつでも美しい姿です。この冬は寒い日が多かったのですが当日は寒さもゆるみ陽射しもあり過ごしやすい日でした。平日だったため一日を通して1000人にも満たない来場者でしたので特に混乱もなくスムーズに乗船いただけました。

来場者の方にアンケートを取っていて気が付いたのは意外と海外から来られた方が多かったことです。地下鉄の一日乗車券を持った韓国、中国の方が多かったです。また、近所なので毎日来てるといっても何人もおられ船に親しめる環境にあるのをちょっとうらやましく思いました。

セイル・オーの揃いの青いジャンパーを着て何人もの仲間が岸壁でいろいろなお手伝いをしている様子は私の目にも楽しく好ましいものに映りました。そのせいでしょう、セイル・オーの活動に興味を持って声をかけてくださった方もいらっしゃいました。こんなところからどんどん活動の輪が広がるとよいなと思いました。

(谷口さん)

1) 海王丸ボラに参加して

久しぶりにボランティア活動に参加、何か月ぶりだろう。体調不良で足腰が悪く随分とご無沙汰していたが、SAIL O 皆様の姿を見てまた元気を貰った。

海王丸は何年振りか。一般公開は、昨年秋に大阪港開港150年祭で3隻が集まって以来で、日本丸、海王丸、きぼうと当然痛い足を引きずりながら岸壁まで出かけたことを思い出す。しかしながら台風接近ですべての行事が中止になり、残念な結果になった。その前に行われた神戸まつりのパレードは好天に恵まれ、大勢の観客の来場で盛り上がっていたことが懐かしくもある。

今日も夕方には爆弾低気圧の通過が予測され不安な出だしである。しかし振り返ればおだやかな小春日和の一日となり、一般公開が順調に始まった。前日に一度海王丸を見たくて見学には自分は来ていた。

今日は朝早くからの参加で、参加者の顔を久しぶりに見て、再度元気を貰った。一般公開時間は9時からで、いつもより格段に速くお客さんが集まってくれるか不安なスタートとなった。入口でアンケートを取り、パレットを1枚2枚4枚と組み立てた階段を上がり、タラップがこれについていて少し危なっかしいところもあり、事故が起きないようにお客様のサポートを案内誘導して船内へ案内するとの事で順調に動き出した。思ったより少ない出だしで、果たして大口を叩いた自分の予想よりはるかに少なく1日で1000名程度の見学者で終わる。おかげで心配された低気圧の通過もなく、おだやかな一日となり、天候的には恵まれた。

また有志のみで東京海洋大学の「SINYOUMARU」に船内見学をさせていただき感謝、仲間との雑談も私自身には特効薬で気分的にはよかったが、足腰の痛さはこらえきれないくらいの1日でありました。また次回身体の許す限り参加の機会を作ります。会員の足を引っ張らないよう努力しますので。

参加者 15名(敬称略):

中路、遠藤、岩村、大西、甲佐、近藤、新谷、高橋、澤、塚本、谷口、村田、山畑、吉田、土井

(吉田さん)

② ポーランド帆船「ダル・ムウォジェジ」一般公開ボランティア

ポーランドから帆船「ダル・ムウォジェジ」大阪港来港

9月18日、ポーランド、ダル・ムウォジェジ大阪港来港のメールにざわついた。何しろ私は、SAIL OSAKA '97のポーランドチームだったのだから。大阪停泊予定は当初は11月13日から11月16日。その後、停泊期間の変更があったり、一般公開の日や、時間も直前まで一転、二転。私のスケジュール調整に間に合わず焦った。それ以前に応募したハルカスランのボラ活動で横断幕作成に参加できなかった。11月11日には区民ハイキングに既に申し込んでいたため、入港日の歓迎式にも参加が難しくなり、苛立ち混乱はマックスになった。そんな時 SAIL OSAKA '97時代の埃を被っていたアルバムを取り出すこととなった。これがきっかけで、年休をとってできる限り、ダル・ムウォジェジと同じ時間を過ごそうと心が決まった。

11月12日(月)11時の集合に向かった。途中、制服姿のクルーに何度か遭遇し、その都度テンションが上がった。天保山岸壁に向かい左に折れると船首が目飛び込んできた。堂々と岸壁にダル・ムウォジェジが停泊、再会に感動した。ダル・ムウォジェジは‘18年5月20日にグディニャ港を出発し、ポーランド独立回復100周年を記念した世界一周航海の途中であった。

私は、乗船一般公開の受付を担当した。「船上は外国ですので～」と、おひとりお一人に案内し、お名前、ご住所などを記入していただいた。小雨交じりで気温も低い。それでも平日にもかかわらず訪問客は途切れることはなかった。この後、運よく、夜の船上パーティにも参加できた。急きょ参加女性は着物を着ることになったが、私はsail’o 備え付けの振袖を着つけてもらえた。着飾った女性6人で、鏡割りしたお酒をゲストに配って、パーティに和のおもてなしをさせていただいた。

11月15日(木)、一般公開の最終日。ダル・ムウォジェジは、ダイヤモンド・プリンセスに天保山岸壁を譲り、中央突堤北岸壁に移動した。曇り空、気温も低い。風も寒しいし、駅から遠いこんなところまでわざわざ人が来るとも思えないし、心も足も重かった。それでも、角を曲がり帆船の姿を見るとウソのように、活動モードにギアが入った。途中、ダイヤモンド・プリンセスの乗船客、東京方面のご夫婦を案内して連れてきた。西区の幼稚園からバスで訪問があったり、新聞を見て市外から来た方もあったり、なんと埼玉から新幹線で来た人もいた。午後5時まで、人出は途切れることなく、うれしい想定外であった。昼過ぎ、船長が船から降りてきて、港湾局の職員や私たちsail’oと記念の集合写真を撮った。イベントをやり遂げた3者の気持ちが一つになった瞬間だった。

11月16日(金)出港の日。航海の無事を祈願し、大阪税関・神戸税関合同音楽隊が演奏をする。大阪市や港湾局からお見送りの言葉があり、ポーランド側から返礼の大使や船長の挨拶が続いた。船長が「ブルージャケットのメンバー～」と言うのが聞き取れた。イベントの仲間と認めてもらえて光栄だった。デッキに若いクルーが整列し、歌ったり、ウェーブをしたり、暫く岸壁に集まった人たちとの別れを惜しむ時が過ぎた。タラップが上がりよいよ船出。中路さんから「船が出てすぐに人がいなくなると船の上からはとても淋しい」との実体験を伺っていた。船首が向きを変えた後、メンバーは横断幕や旗を持って、中央突堤の最先端ぎりぎりまで移動した。船は次第に小さく、小さくなって行く。それでも、みんなでbon voyage, bon voyageと沖に向かって叫んだ。「帆船と国際交流の会」にふさわしい活動ができて幸福でした。ありがとう、ダル・ムウォジェジ。ありがとう、sail’oのみなさん。

(篠原さん)

③ 第8回大阪マラソン団体ボランティア

18年11月25日(日)、大阪マラソンが開催されました。ボランティア活動には前回同様15名で応募し、前回同様中ノ島土佐堀ブロックの10キロ給水所スポーツドリンクの担当でした。

当日7時20分にリーダーミーティングが行われたが、特に新たな指示はない。7時40分、参加者全員が集合。トイレを済ませ、道路の向かい側の活動場所まで移動した。ドリンクを並べるテーブル6卓は既に用意されていた。2つのトレイから使用資材を下す。2個の段ボール箱にごみ用ビニール袋をいくつか重ね、テーブルの横に置き、またごみ用ビニール袋を舗道の手すりにガムテープで貼り付け、分別の種類を書いた。紙コップをテーブル上に取り出し、スポーツドリンクをボトルから入れてテーブルに並べる。紙コップの上に段ボールを敷き、2段目、3段目まで紙コップを並べ、準備を終えた。

9時に車いすランナーが通過。9時半に最初のランナー通過。いよいよ作業開始。事務局から、特にドリンクを入れた紙コップを多く残さないようにしてほしいとの指示があり、早めに2段目、3段目のドリンクを提供し、テーブル上のドリンクをランナーに提供するようにした。また、ランナーが取り損なうと紙コップがまとめて倒れるので、50センチくらいの間隔で並べて取りやすくし、順次1列目に補充していった。また、先頭に近いランナーはスピードがあり掴んだコップの中身が揺れこぼれるのでドリンクは半分まで、遅い集団はたっぷり水分を補給するので中身は3分の2にするなど状況に応じて対応していった。

11時に最終ランナーが通過し、片づけ作業にはいった。十分に慣れた作業であり、分別収集もドリンク提供作業と並行して行っていたので手際よく行えた。反省会兼昼食会も北浜キタリシテで行った。

今大会はスタート地点が大阪城公園で、フィニッシュ地点が南港であったが、次大会はスタート地点もフィニッシュ地点も大阪城公園の周回コースになるそうです。どのようなコースになり10キロの給水所がどこになるか不明ですが、次回も15人で応募していきたいと思います。

(中路さん)

2. 旅行記・イベント参加報告

① 大阪港150年記念祭に参加して

平成30年3月4日に大阪港150年記念祭「和・WA・わっ JAPAN in 天保山・大阪港」が開催されました。

港住吉神社前から10:30にパレードを出発するとのことでしたので、10時過ぎに神社に行きました。(この時はまだ足の捻挫が治っていなかったため、遠くから見守り参加することにしました)

吹奏楽隊(演奏曲はSEKAI NO OWARI「RPG」を演奏)、バトン隊、築港中学校の生徒さん達、菱垣廻船復元プロジェクトメンバーやセイルオーメンバーがヒガキくんと一緒に途中商店街を通りながらサンセット広場を目指しました。

サンセット広場では11時からオープニングセレモニーが始まり議員の方々のあいさつがあり、そのうしろでメンバーがヒガキくんのセイルを懸命に立てていました。私の方は学生時代の友人が奈良から遊びに来てくれていたので迎えにいき、観覧席から見物しました。もちまきの時は最後方にいたので時々飛んでくるくらいでしたが、なかなかキャッチは難しく、何とか転がってきたのを一つ拾うことができました。それが終わると…何やら音楽が流れてきて…サプライズパフォーマンスが始まりました。消防局、旧交通局…などの行政官庁や飲食物販などを行っている地域の皆さんなどが集まってきて…「ダンシングヒーロー」を踊り始めました。ノリノリで楽しくて…私自身も一緒に踊りたい気分でした。ダンスをされていた皆さんは、1か月前から仕事終わりに集まって練習をしていたそうです。

お昼は特設のフードコートに行き、シラスコロッケと甘えびから揚げを味わいました。別の場所ではマグロの解体ショーもしていました。広場に戻ると、鏡開きセレモニーがあり、振る舞い酒を配布していたのでいただきました。樽酒はとってもおいしかったです。その他消防艇やタグボートの船内見学をしたり、久しぶりに天保山のイベントで一日過ごしてとても楽しかったです。友人もとても喜んで帰って行きました。これからも大好きな場所である天保山周辺でいろいろなイベントが開催され、賑わってほしいなと思いました。

(ナカツルさん)

② 夢待ち港～弁財船の航跡

18年7月22日早朝、前日の雨は上がったが、霧。オホーツク海に面した北海道北東岸の宇登呂港。いよいよ念願の知床岬を回る時が来た。叔母夫婦と姉と妻と何度か宇登呂に来て観光船に乗艇したが荒天のため知床岬を目にすることが出来なかった。海面から20mの高さまでは視界は良いが、知床連山は霧の中。06時離岸。高い防波堤を回り、『サザンクロス』の船首を東に向ける。定置網（目視）と船位（GPS、カーナビのようなもの）と水深（測深機）に注意しながらできる限り陸岸に接近して航行する。定置網は結構沖まで伸びていてそれを避けるために大きく迂回する。フレベ（赤い水）の滝（写真1）、象の鼻、カムイワッカ（魔の水）の滝（写真2）、ルシャ湾（小熊を発見）、カシュニ（仮小屋のあるところ）の滝（写真3）を通過。09時45分知床灯台（写真4）に達する（知床岳は依然として霧の中、しかし、平坦な岬に立つ知床灯台ははっきりと視認できた）。やっと来たという思い。大阪を出て66日。その間、5月19日角島での強風による出港見合わせ。6月26日の陸奥湾三厩港、7月4日の石狩湾小樽港へは、低気圧と台風の接近に対処して寄港地を抜港して避難した。北海道北部では荒天を予想していたが霧の日が続いたが静穏な海面を航行することができた。

知床岬を回ると北寄りの風が吹き始める。暫くすると視界が晴れ山頂は隠れてはいるものの知床連山（写真5）が姿を現す。11時25分相泊温泉通過、13時羅臼通過。15時羅臼峯山漁港（写真6）到着。9時間のクルーズが終わった。何年もヨットが入ったことはないという峯山地区の方から羅臼昆布をいただく。羅臼町郷土資料館（「知床の岬に～」作者森繁久弥主演「北に生きるもの」関係資料も展示。必見。）を見学した。再訪したい町のひとつになった。

資料：◎ 大阪出港18年05月13日、大阪帰港09月02日。113日経過丸。

◎ 寄港地地59港、航海日数65日、航海距離3350海里。

◎ 取材港：大阪港、塩飽本島、加賀塩屋港、秋田能代港、青森野辺地港、北海道江差港、岩手石巻港

◎ マリーナ：尾道港、萩港、若狭大飯港、酒田港、由利本荘港、秋田港、青森港、小樽港、函館港、東京港、

（中路さん）

③ 第11回ええやん！天保山まつり

菱垣廻船（ひがきかいせん）浪華丸ヒガキくん まちなかパレード

朝9時40分、いよいよメイン会場に向けて出発です。地元、大阪市立築港中学校の吹奏楽の皆さんを先頭に港住吉神社からパレードがスタート。少し遅れ気味、曳子の中学生も圧倒されるオパチャーのユニークでファンキーなパワーが爆裂！沿道から笑い歓声が飛ぶ。

平成30年10月28日（日）築港・天保山は晴れた。今回で5回目のまちなかパレード。

オープニングセレモニーに合わせるためメイン会場には10時40分。その時かなり焦っていた。到着は、ぎりぎりだった。この菱垣廻船の到着は、オープニングを飾る大事なポイント。メイン会場は海遊館横サンセット広場。海を望む階段状になったエリアには、隙間なく座る多くの市民らが鈴なりにオープニングを待っていた。岸壁沿いに設営された模擬店の前にも多くの人で賑わっている。そんなメイン会場は真っ赤なパンチカーペットがステージ。

そう、ここは安全第一。細心の注意でメインステージの後方、静かに止めた。これを合図に、勇ましい寄席太鼓が鳴り響く、風の吹く方向を見る。うまく帆に風を受けるよう菱垣廻船の停止位置を決めた。長さ約9mの帆柱を手際よく立てなければならない。そして勇壮に海を走る菱垣廻船を創造しながら帆を広げる作業を進めた。ちょうど乙女の胸の膨らみのような美しいカタチの帆を演出するのです。

「浪華丸ヒガキくん」の愛称で親しまれている三分の一縮尺の菱垣廻船は、平成25年より出来る限り忠実にイメージし造作してきた。第6回天保山まつり、まちなかパレードでデビュー。今回で6回目。大阪築港・天保山の世界一ゆるくないキャラクターである。

平成12年にオープンしたなにわの海の時空館（現在閉館）南港に浮かぶガラスのドーム。

ここの主展示物が江戸時代に活躍していた完全復元船の「菱垣廻船」浪華丸である。

（全長約30m、幅約9m、帆柱の高さ約30m）。

この建造過程で製作された試作船体（1/3サイズ）を出来る限り忠実に造作してきた。

それが三分の一縮尺の菱垣廻船「浪華丸ヒガキくん」。平成25年7月より十数名の市民ボランティアが集った。復元を目指して作業に取り掛かり菱垣廻船らしくカタチも整った。

初のまちなかパレードを成功させることができた。あれから5年、災害にも見舞われたが平成も最後の年、第11回天保山まつり、まちなかパレードは大いに盛り上がった。

そして平成30年11月24日、2025年大阪万博の開催が決定。天保山から望めば、会場の夢洲は海に浮かぶ万博だろう。訪日外国人は、日本の文化を観にきていると聞く。三分の一縮尺の菱垣廻船「浪華丸ヒガキくん」をきっかけに世界中の人たちに和船の文化を紹介したいと思う。

一社）港まちづくり協議会大阪
菱垣廻船復元プロジェクト

（高見さん）

3. その他情報

① ポーランド帆船「ダル・モジェジィ」関連

1) 着離岸日時： 2018年11月11日（日）10時着岸、
16日（金）10時離岸

2) 一般公開乗船者数：

11日（日） 715名、12日（月） 374名、13日（火） 393名、
14日（水） 154名、15日（木） 301名

② 会議等

1) 大阪帆船と国際交流の会総会ご案内

開催日時： 2月16日（土）10時から12時まで

開催場所： 大阪ボランティア協会会議室

（大阪市中央区谷町2丁目2-20大手前類第1ビル2階）

2) 来年度役員募集

役員： 代表、副代表、事業担当、広報担当、会計担当、会計監査、

任期： 2019年4月1日から2020年3月31日まで

③ イベント案内

1) セイルO'お花見会

今年もセイルオーお花見会があります。

日程：4月6日（土）早朝要場所取～夕方ごろまで、

場所：大阪城公園（例年どおり各自持寄）

目的；桜の下で春の陽気を満喫しながらの懇親会。

港や海の情報交換など話題が満載です。ぜひご参加ください。

*場所取隊員募集！高見まで

編集後記：

急な話ですが、九州に転勤になりました。出来る限り、こちらから活動に参加したい
と思います。

年初早々、職場でインフルエンザが大流行しています。皆さんも、お身体くれぐれ
もお大事にしてください。（辻村）

先日セイルオー新年会におじゃましました。神戸港に停泊中の、静岡母港の帆船
「Ami」号のクルーの皆さんも来られて楽しい集いでした。

タカさんからのご提案もあり、今後は会報中の個人名取り扱いに注意しながら、
セイルオーホームページにも会報をアップしていける様に取り組んで参ります。

（北村）